2023年（令和5年）
6月24日
（土曜日）

THE KENSETSU MIRAI TSUSIN
建設未来通信

茨城全県版
発行所：茨城県水戸市笠原町1523-3
桂ビル2階
TEL:029-291-8855 FAX:029-291-8854
https://www.kensetsumirai.co.jp
新聞購読料　月額5,940円（税込）
電子版購読料　月額4,400円（税込）

地域に貢献できる建設産業を目指す
常磐建設株式会社
代表取締役 佐々木　孝夫
〒301－0824　茨城県龍ケ崎市2957番地
TEL 0297－62－2121
FAX 0297－64－2780

いばらきの公共事業
～歴史をたどり、後世に残す～
県土木部港湾課編(完)

常陸那珂港と阿字ヶ浦海水浴場のおもいで
渡邊 一夫 氏 × 海野 定文 氏
元県土木部長（当時・県土木部港湾課課長）
元土木部技監兼常陸大宮土木事務所長（当時・県土木部港湾課技佐兼課長補佐（技術総括））

私はひたちなか地区の開発に、道路建設課という立場で前々から携わっていました。射爆撃場の跡地であることから、各事業者のための工事用道路をつくるため、不発弾の調査なども行い、非常に大変だったことを覚えています。当時、港湾のことまで携わるとは思ってもみませんでした。また、子どもを連れて何度も訪れた阿字ヶ浦海水浴場には、家族との思い出がたくさんあるのです。（HPトピックスに掲載）

常陸那珂港は、北関東自動車道と直結しております。圏央道も整備され、常磐道とも相まって、高速道路ネットワークの充実により港へのアクセスも一層向上。常陸那珂港は北関東の玄関口として期待されております。

臨港地区には、建設機械メーカーのコマツと日立建機㈱が進出しております。コマツ・RORO航路を中心に、内貿・外貿あわせて20航路が運行されております。近くには国営ひたち海浜公園があり、さらに「東洋のナポリ」といわれた阿字ヶ浦海水浴場があるのです。

私は平成14年4月から平成16年3月まで港湾課長を務めました。平成15年、常陸那珂火力発電所の本格稼働にあたり、灰処分の問題や石炭船の接岸の問題など、たくさんの協議を行いました。

臨港地区の造成工事も積極的に進めました。この頃は、「企業立地の見込みもないのに無駄なことをやっている」など、陰口を叩かれたりしておりました。

企業誘致グループにはコマツと日立建機をはじめ、多くの企業に常陸那珂港の優位性を説明し、立地を進めて歩いてもらいました。数年後になりますが、無事、コマツと日立建機に立地いただいたので、造成を進めておいて大いに良かったと、しみじみ思いました。

思い出深いのは、阿字ヶ浦海岸の浸食対策です。寒い冬のことだったと思いますが、橋本知事と一緒に、現場で観光の方々の説明を受けたのです。

当時の海岸は、立派な砂浜は跡形もなく、砂利が剥き出しで荒い波が打ち寄せていたのです。とても海水浴どころではない、何とかしてほしい、と訴えられました。

知事からも「来年の海水浴の時期までに、なんとか海水浴場を取り戻せないか」と言われ、やってみます、ということになりました。

その後、茨城大学の三村教授（のちの学長）の全面的なご支援を得て、関係者が集まっての勉強会を開いてもらいました。色々と案はありましたが、結果的には、まず沖合に数千個の消波ブロックで離岸堤をつくり波を弱くする、そして北側に砂の流れを止める突堤をつくり、そのあと砂を入れる、ということになりました。

消波ブロックをつくっている暇はありません。各港湾事務所で持っていたブロックをとにかく集めて、地元の建設業の皆様にも無理をお願いし、まずは離岸堤を急ぎ完成させたのです。突堤も大急ぎで完成させ、国営公園側に堆積していた砂を、浸食されている箇所に入れ始めました。砂はすぐ沖合に持っていかれてしまいましたが、あとからあとから投入したのです。そうするうちに、やっと砂浜が出来ました。投入した砂の量は数十万㎥です。

このようなことで、何とか海水浴に間に合わせ、砂浜を復活させたのです。遠浅の砂浜が復活し、海水浴シーズンには多くの方々が訪れるようになりました。大いに賑わいを取り戻した美しい砂浜は、まさに「東洋のナポリ」。砂浜復活を見届け、ほっと安心したことを今でもまざまざと覚えております。

阿字ヶ浦侵食対策
ブロック集め離岸堤完成

港湾振興を図り企業誘致

私が港湾課技佐の辞令を受けたのは、平成14年4月のことです。当時、港湾の経験は全くありませんでした。恥ずかしながら、まずは若手職員から港湾用語集を借りてコピーし、1から勉強です。分からないことは聞き、現場にも積極的に足を運ぶ。とにかく開き直って、体当たりで取り組んでいくしかありませんでした。

当時の常陸那珂港は、北公共埠頭地区にガントリークレーン2基設置、石炭火力発電所2基の稼働、中央埠頭地区での石炭灰による埋め立て、臨港地区の土地造成、東防波堤の延伸など、多くの事業が進んでいました。

港や臨港地区の整備が着々と進むなか、FAZ物流倉庫も整備され、海外へのポートセールスなど、港湾振興を図るとともに、企業誘致にも力を入れていました。

また当時は、阿字ヶ浦海岸の浸食が進んでいて、喫緊の対策が求められていました。かつては日本一の来客数を誇った、美しい海岸が侵食され、砂浜が減少し、護岸まで波が打ち寄せている状況だったのです。

そこで、茨城大学の三村先生にご指導いただき、地元の関係者、県、市等関係部局の職員などで構成する検討委員会を設立。多くの検討を重ね、緊急で対策を実施することになりました。

前面には離岸堤2基、北側には突堤1基の建設、さらに養浜や、常陸大宮土木事務所が担当する護岸復旧工事との連携対応により、海岸を復活することができました。

課長の指示を受け、短期間のうちに工事を終えることができた時は、安心すると同時に感動したことを覚えています。

このほか、日立港で起きたチルソン号の座礁事故にも関わり、現地で指揮を取りながら大変苦労した思い出があります。その後、平成15年4月には、川尻港にクジラが漂着したこともあります。防波堤の消波ブロック上から大きなクジラを回収する作業は難航しましたが、日立港で起きた座礁事故の際、タイヤチップの散乱防止に使用したワイヤモッコが役に立ったのです。ワイヤモッコを利用して、クレーンで引き揚げてトレーラーに積み、川尻海岸に一時埋設しました。

このクジラは、体長約13m、重さ約33tのセミクジラでした。今はアクアワールド大洗水族館に、骨格標本として展示されています。全身の骨格標本は国内でも数体を数えるばかりの大変貴重なものだそうです。セミクジラの漂着という珍しい事例に直面しましたが、こうして過去の経験を活かすことで、乗り切ることが出来ました。

私は春になると、ひたち海浜公園に足を運んでいます。園内にあるみはらしの丘の頂上から、広大な景観とともに港湾の整備状況などを眺めるのが、毎年の楽しみの一つです。

かつて、常陸那珂港が無駄なインフラ整備の代表のように言われたこともありました。しかし今こうして、丘の上から、発展する常陸那珂港や阿字ヶ浦海岸方面を眺めると、担当していた当時を思い出して、大変感慨深いものがあります。

みはらしの丘は、道路等の建設発生土のストックヤードとして造成が進められた場所であり、私が建設リサイクル推進室長を務めていた時、現地調査を行ったことがありました。今ではネモフィラ、コキアなど、絶景を一目見ようと大勢の観光客が訪れる一大観光スポットになっており、こちらもまた心に染み入るものがあります。

県を退職した後は、東京ガス㈱で日立港LNG基地および首都圏と県を結ぶ幹線パイプラインネットワークの建設5カ年プロジェクトに携わりました。この時、港湾での経験や学んだこと、お世話になった方々との繋がりに、大変助けられました。港湾課での3年間は、何にも代えがたいほど大切な経験をさせていただきました。大変感謝しています。（島津就子）

海野　定文（うみの　さだぶみ）
1949年11月28日生まれ。73歳。初入庁時は、高萩土木事務所に所属。その後、港湾課技佐（常陸那珂港整備推進担当）、港湾課技佐兼課長補佐（技術総括）、建設リサイクル推進室長、道路維持課長などを経て、2010年に土木部技監兼常陸大宮土木事務所長で定年を迎えた。

いばらきの公共事業を紐解く

竹園橋等3橋を補修
つくば市　工事発注へ　詳細設計

つくば市は竹園橋、4452-6号橋、春日北橋の3橋を補修するため、設計の策定に本年度から取り掛かる。設計の履行期間は2024年3月5日まで。

同業務は既存橋梁の補修にあたり、劣化の範囲や程度の調査、補修方法や劣化原因の除去の検討を行い、補修工事発注に必要な詳細設計を行うことが目的。

各橋の概要は、竹園橋が橋長68・7mで幅員が5m。竹園地内に位置し、橋梁形式はPC方杖ラーメン橋。竣工は1974年。設計概要は上部工補修工設計、下部工補修工設計、伸縮装置補修設計、支承補修設計、橋面防水工設計など。

4452-6号橋の橋長は18・8mで幅員は6m。場所は千現地内、橋梁形式はPCポステン中空床版橋。竣工は79年。設計概要は上部工補修工設計、下部工補修工設計、伸縮装置補修設計、橋面防水工設計など。

春日北橋は79年竣工で春日地内に位置。橋梁形式はPC場所打床版橋。橋長は46m、幅員は5m。設計概要は上部工補修工設計、下部工補修工設計、伸縮装置補修設計、支承補修設計、橋面防水工設計。

「四季健康館」命名権
7月18日まで募集受付　小美玉市

小美玉市はこのほど、四季健康館（部室1106）のネーミングライツ・パートナーの募集を開始した。契約期間は原則3年以上5年以下。希望金額は年額100万円以上（税込み）。7月18日まで募集を受け付ける。

命名権の付与により自主財源を確保し、施設の管理運営や利用者へのサービス向上を図るとともに、市民の健康づくりの推進や福祉の充実に寄与することが目的。昨年度の利用者実績は6万5705人。

応募資格は、市内に本社または支社、営業所を有する法人、その他の団体、指定管理者。

愛称の条件は、募集の目的や対象施設にふさわしく、市民の理解が得られるものとし、前後に「四季健康館」など保健福祉施設と分かる名称を使用することなどとしている。

問い合わせは、健康増進課（電話0299-48-0221）。

女性の入職や定着促進など
約60人が活発な意見交わす
《茨建協建女ひばり会》

▲6～7名のグループに分かれ情報交換

県建設業協会建女ひばり会（柳瀬香織会長＝写真）は16日、2023年度会員交流会（情報交換会）をホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸で開催した。会員約60人が出席し、女性の入職や定着促進などについて情報交換した。

冒頭、柳瀬会長は「この交流会を通じて、建設業における女性の入職や定着の促進に繋がれば良いと考える」とあいさつ。

続いて、石井髙子副会長が活動報告を行った。

情報交換は、各グループ6～7人に分かれて実施。女性が入職・定着しやすい環境づくり、女性のキャリアアップ、出産・育児などについて積極的に意見を交わした。

物産館の屋根塗装
茶の里公園　8月頃にも指名競争　大子町

大子町は、奥久慈茶の里公園（左貫1920）内の物産館の屋根塗装工事を実施する。8月頃に指名競争入札での発注を予定しており、工期は3カ月を想定。

公園内にある物産館の屋根602㎡の塗装工事を実施する。物産館は1995年築のW造平屋建て、延べ床面積は387・56㎡。

奥久慈茶の里公園は、奥久慈茶の販売や茶摘み、手もみ茶づくりなどの体験ができる施設。園内には茶畑や体験施設のほか、茶室や物産館、和紙人形美術館などがある。

石川運動ひろば庭球場芝張替え
《ひたちなか市》

ひたちなか市は、石川運動ひろば（石川町10）内のテニスコートの人工芝張り替え工事を実施する。夏頃までには一般競争入札で発注を行いたい考えで、工期は120日を想定。2023年度当初予算では、工事請負費として1465万2000円を計上した。

テニスコートの人工芝に経年劣化が見られる。芝がめくれている場所もあり、プレイ中の怪我を防止するために人工芝張り替え工事を実施する。張り替えるのは全2コート分（1552・2㎡、芝丈20㎜）。

八郷総合支所で外壁タイル調査
《石岡市》

石岡市は八郷総合支所（柿岡5680-1）で外壁タイル面等の調査を行っている。㈱藤岡設計に165万円（税抜き）で業務を委託した。履行期限は2023年9月30日まで。調査を実施した結果、必要があれば今後修繕を行っていく考えだ。

同業務は建築基準法に基づき10年に1度行うもの。外装仕上げ材等について、損傷、腐食その他の劣化の状況を全面打診等で調査する。

八郷総合支所は1994年の建築。規模はSRC造4階建て延べ床8100・63㎡。